



じゃあすき あけぼの



福山市立曙小学校 校長だより 2026年(令和8年)6月25日

「平等」と「公平」の視点を

平等とは	すべての人に対して同じ対応をすること。 状況に関係なく、全員に同じチャンスを与えることを指すようです。
------	--

公平とは	それぞれの人の状況に応じた対応をすること。 状況を考慮し、適切な条件を整えることを意味するようです。
------	---

その違いは…

内が見たいのに、背伸びしても見えない高さの塀の前に、子どもとおとながいたら…		4個のパンを2人に分けたいとき…	
子どもにもおとなにも、同じ高さの踏み台が用意される(用意する)	子どもには高い踏み台が、おとなには低い踏み台が用意される(用意する)	1人に2個ずつ配る	おなかのすいている人に3個、おなかいっぱいの人に1個配る

- ◆「平等」な状況であれば、納得できないと思うようなことは少ないように思います。傾向として、「平等」を重んじることが多くなっているかも知れません。
- ◆「公平」な状況であれば、目的は同じでも「手段」に違いが出るように、「違っている」ことが気になり、比べることを通して、「ねたみ」などの思いが生じたり、より適切な条件を求めたくなったりします。

学校でのあらゆる指導・支援は、「平等」と「公平」の観点をもって進めたいと思っています。

授業においても、学習問題の解決(目的)に向かって、児童との『合意形成』のなされた手段を駆使していくことが大切だと思います。

わたしの立場から言えば、「平等」観の強い指導・支援には、「公平」の観点から、「公平」観の強い指導・支援には、「平等」の観点から考えを伝え、「なぜ、その方法なのか」に価値づけしていきたいと思っています。

引き続き、児童と先生方といっしょに、わたしたちの日常の取組について問い続け、児童との「合意形成」を大切にしていきたいと思っています。